



いわなが よしなり 議員

町長の虚偽答弁状態を確認する

町長 優先順位の再検討を協議した

議会にて、給食費無償化は「補助金に関係なく小中学校同時に行う」旨の発言をしている。実際は小中学校のみ無償化された。

問 昨年の答弁では、国県からの補助金の有無にかかわらず小中学校同時に給食費無償化を行う旨の発言をしており、現状は虚偽答弁状態となっている。発言の訂正を求める。

答 考え方を発言しただけ。虚偽との認識はない。

問 虚偽答弁の状態を解消するため、速やかに中学校での給食費無償化の実施について再度提案する。

答 令和8年度とか9年度とかいつやるかは述べていない。自身の公約でもあるので、状況を見て段階的に行いたいと考えている。来年か再来年かわからないが自身が町長の間には必ずやる。

問 補正予算を組んでも、すぐに中学校での給食費無償化をスタートさせることを提案するが、実施時期についての考えは。

答 早くやりたいが、段階的に内部で調整しながら、行政として財源の確保ができれば早い段階で実施したいと考えている。



釈明する川地町長（議会録画映像より）

ナフサ不足による町ゴミ袋は

町長 予定通り納品の見込み

不安定な中東情勢の影響で石油関連の流通に混乱が生じている。自治体指定ゴミ袋の供給不足が懸念されている。

問 町指定ゴミ袋の需給状況及び安定供給の目処は。

答 一部報道の影響で販売枚数が増加しており、例年の約2倍の販売実績となっている。今年度については既に業者と契約済みであり、納品も予定通りの見込み。在庫についても十分な数と考えている。

問 ゴミの量は増えているのか。

答 町民の協力により、ゴミの量は年々減少している。ゴミ袋の販売数は一時的に増加しているが、年間販売数は例年通りになると予想している。

問 万一、不足する事態になった場合の対応と周知は。

答 半透明ビニール袋に1枚40円のシールを購入して貼ることで町指定ゴミ袋と同様に使うことができる。町ホームページやケーブルテレビ等で周知していく。

問 物価高騰の中であるが次年度以降もゴミ袋の価格は維持できるか。



万一ゴミ袋が不足する事態にはゴミシールを

部活動遠征の体制は

町長 危機管理マニュアルで義務付け

学校の管理下においての部活動の遠征移動は生徒の安全確保が重要であり、事故防止等に万全の措置が必要である。

問 部活動遠征時の体制と移動方法は。

答 学校における部活動の遠征や大会参加時は、保護者の送迎を依頼しているほか、公共交通機関を利用しての移動を原則としている。遠隔地の場合は、バス会社やバスを手配し、借上げバスを使用して対応し、レンタカーを借用しての移動はしていない。

問 交通費や遠征費用負担等の対応と安全確保の対応は。

答 県大会以上の対外試合、コンクール等の大会参加の場合、生徒派遣費助成金を利用し、経済的負担軽減を図っている。



中学校総合体育大会（高田中 HP より抜粋）

地域自治町民会議の現状と今後は

町長 積極的に支援

地域自治町民会議が設立から10年を迎える地域もあり、地域間の住民の意識や活動にも格差を感じる。

問 各地域の活動状況、評価は。

答 新たに多芸西部地区で設立に向けた協議が始まっている。地域によって組織の体制は様々。活動によりコミュニティの維持・強化が益々重要になる。

問 設置目的や役割の周知は。

答 役割分担にとらわれないことなく、各種団体のネットワーク化を図り地域全体で協力し助け合うことを設置目的の一つとしている。

問 情報発信やDX化の支援は。

答 運用方針や組織内での合意形成も必要。地域活動交付金などを活用し、ホームページの開設・活動の効率化

情報発信を支援。

問 小学校再編による地域自治町民会議の統合は。

答 コミュニティの希薄化が進行する懸念があり、考えていない。

問 若い世代、担い手の育成は。

答 郷土愛に繋げ、次世代、更に次世代へ地域の人の循環創出していくことが重要。



笠郷地域創生自治町民会議 設立10周年記念講演